

「被災地の子どもたちに音楽・芸能を届けよう！」プロジェクト2016

## 事業報告書



### 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会

東日本大震災の被災地の方々を取り囲む環境は、地域によって復興の度合いに違いがあるようです。6年を経てもなお避難先で暮らしている方々が12万人近くいらっしゃいます。新しい復興住宅に移り住んだ方々も、大切なものを失った喪失感や将来への不安を払しょくすることは容易ではなく、心の復興はこれからが肝心とされています。

当協議会では、東日本大震災直後から文化芸術を通じた震災復興プロジェクト事業を実施し、被災地の自治体等と協定を結ぶなどして地域との結びつきを強めてきました。その経験を踏まえ、2016年度は前年に引き続き東北3県の学校などを訪問して音楽や芸能を届ける実演家たちの活動支援を行いました。ここに2016年度の支援活動をご報告いたします。

当協議会では、2017年度以降も、音楽、芸能を通じた被災地支援活動を継続しています。皆様のご理解とご協力を、心よりお願い申し上げます。

## ●スマイルプロジェクトによる室内楽の出前コンサート

日本音楽家ユニオン東北地方本部の演奏家たちが、2012年から始めた「スマイルプロジェクト」は、東北の小学校から希望を募り2～3名の演奏家が学校を訪問して室内楽の演奏を聞かせて交流するという事業です。東北在住の演奏家たちが、被災地の子供たちに音楽で元気になって欲しいという思いから企画して続いている事業で、芸団協は2012年から応援しています。2016年度は、全30校から寄せられた実施希望のうち、岩手県と宮城県の6つの小学校での活動を芸団協支援公演として実施しました。



### 学校アンケートより

- 音楽を通して笑顔が広がるすばらしいプロジェクトだと感じました。
- プロの圧倒的な技量と、演奏家のみなさんのお人柄が、子どもたちに貴重な体験をさせてくれました。ありがとうございました。
- ピアノ曲を自由な場所で聴き、曲から受けたイメージを絵や言葉に表現する活動が印象に残りました。昨年度に引き続きスマイルコンサートで来校して頂き本当にありがたい気持ちでした。震災後、避難したまま戻ってこない子どもたちも多い現状の中、本プロジェクトで支援していただけることは大変励みになります。今後もぜひ継続をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。
- 卒業式の歌の指導をしていただきました。普段クラシックにあまり触れることのない子供たちも素敵な時間に浸らせていただき、魅力を感じることができました。ありがとうございました。
- すてきな生の音楽は子供たちの心を明るく、元気にします。ぜひこのプロジェクトを継続していただき、毎年のように来ていただければとてもうれしいです。オーケストラに関心を興味を持つ体験の一つ、また音楽の学習(今回、3年生がヴァイオリンとチェロを使った鑑賞の学習をしたばかり)と関連したものとなりました。本当に遠方からありがとうございました。

### 2016年度 日本音楽家ユニオン東北地方本部 スマイルプロジェクト 芸団協支援公演

- |       |         |                              |
|-------|---------|------------------------------|
| 2016年 | 12月1、2日 | 福島県いわき市立夏井小学校、小名浜第一小学校、泉北小学校 |
|       | 12月13日  | 宮城県亘理町立高屋小学校                 |
| 2017年 | 2月24日   | 福島県南相馬市立石神第一小学校              |
|       | 3月9日    | 宮城県石巻市立万石浦小学校                |

## ●宮古市での演劇公演

芸団協では、岩手県宮古市と文化協定を結び（2012年11月）、以後、宮古市の依頼を受けて毎年冬に「みやこ寄席」を開催しています。市からの直接の委託事業のほかにも、子育て支援すくすくランドで、子どもたちを対象とした公演をプレゼントしようと、実演家派遣を続けています。2016年度は、スタジオ・エッグスによる「いおり博士とこうじくんの理科室パフォーマンスショー」の公演を、2017年1月22日に開催しました。

当日は、未就学児の親子連れが多く、ジャグリングやパフォーマンスショーに慣れていない様子もうかがえ、初めはパフォーマーの問いかけに言葉少なめでしたが、ショーの後半には、パフォーマーの世界に巻き込まれ、楽しそうに大きな声で返事や掛け声をかけていました。大人も子どもも、ほとんどが最初から最後まで楽しんでくれたようで、終了後にお迎えに来たお父さんに、ショーがどんなにおもしろかったかを説明するお母さんと子どもさんの姿が印象的でした。



スタジオ・エッグス

「いおり博士とこうじくんの理科室パフォーマンスショー」公演

（2017年1月22日 於：すくすくランド）

## ●心と心をつなぐ「伝手品」公演

公益社団法人日本奇術協会のドルフィンさんが率いるドルフィン・マジックカンパニーは、福島県のある校長先生の出会いが縁で、震災後、福島県内の小中学校の訪問公演を続けています。ドルフィンさんは、鮮やかなマジックで子どもたちの目を見張らせるだけでなく、子どもたちとのやりとりの中で、「感謝の気持ちを忘れないで」というメッセージを送ります。2016年度も、芸団協の派遣で福島県内の3つの小学校で公演し、各校からは感謝のメッセージが届きました。中には、将来は「マジシャン」になりたいと、トランプの手品をマスターした児童もいるという後日談を寄せてくださった学校もあります。

「大震災から6年が経ち、熊本県や鳥取県で大災害などの発生後は更なる東北の被災地風化が進んできていることや、福島県では原発による風評によって、農畜産業を営む方々の計り知れないお気持ちなどを直接、伺いつつ、今、私たちにできることは何か、一人一人が出来ることを原点に振り返り活動させて頂いております。2016年度は5月には農家の方が提供してくれた田んぼで田植え（手植え）を実施し、秋には皆で稲刈りを実施しました。被災地の方々と親睦を図り、町興しに繋がるイベント等が行えるよう検討させて頂いております。被災地の方々と交流が進む中で、特に気になったのは、福島県の小中学校に於ける、芸術鑑賞の機会が極端に縮減されているという事でした。これまで住み続けていた土地から離れてしまう人が増え続けているという事象は避けられないのですが、このような状況だからこそ、実演家による本物の芸術に触れる機会をつくり、人のつながりや、生きていく上での大切なことを学べる機会の場を今、やらなければならないという大切な時に、それが、後回しにされているように思えてくるのです。本来であれば、文化庁や教育委員会等の行政がもっと積極的に施策を打ち出して、子ども達の明るい将来のための制度を構築して頂きたいと思っております。」（ドルフィン）



2016年度の  
ドルフィン・マジックカンパニーの活動

12月19日  
福島県東白川郡塙町立塙小学校  
12月20日  
福島県石川郡古殿町立古殿小学校  
12月21日  
福島県石川郡平田村立蓬田小学校



## ●人と人をダンスでつなぐ、お互いに踊り合う絆プロジェクト

一般社団法人日本ジャズダンス芸術協会は「人と人をダンスでつなぐ、お互いに踊り合う絆プロジェクト」と題して、2017年2月19日と20日の2日間に福島県いわき市内の3か所で支援事業を行いました。参加したのは、同協会の北浜竜也理事長、杉本亜利砂副理事長、きねむらひろこ常任理事が東京から、地元の実演家として神永宰良副理事長と、伊東憂美 NPO 法人ダンス博副理事長、そしてダンスエクスペリション D. S. の復興支援チームです。



まず初日には、豊間地区の復興住宅の集会所を訪れ、遠藤重政自治会長の挨拶、参加者の自己紹介の後、神永副理事長がストレッチ運動の指導を始め、日頃の健康管理のアドバイスを約45分間行いました。次いで「地元のダンスで踊り逢う」コーナーとして「いわき盆唄」を地元の四家氏より指導を受け、実演家と地元の方の踊り逢う時間を持ちました。その後、杉本、北浜両氏がダンスを披露。伊東氏の歌声に乗せて神永氏が即興舞踊を披露。最後はエクスペリション D. S. の復興支援チームの小学生たちが、活動の象徴になるダンスを披露しました。2時間半のプログラムの後、一行は次の会場へ。



次いで訪れたのはいわきアリオス。いわき市の小中学生を対象にしたワークショップを行いました。「ハイスクールミュージカル」の設定で、学校の部活風景を表現する振付をプロのダンサーと子どもたちが、4チームに分かれて創作。最後には感想を聞きあいました。



2日目に訪れたのは、富岡町のいわき交流サロン。自己紹介の後、神永氏がストレッチ運動を通し日頃の健康管理のアドバイスを行ってから、杉本副理事長、きねむら常任理事がそれぞれダンスを披露し、ジャズダンスの魅力を印象づけました。次いで神永氏が伊東氏の歌声に乗せて即興舞踊を披露。そして、今回の支援事業の目的でもある「地元のダンスで踊り逢う」コーナーとして「富岡町民歌」の指導を受け、実演家と地元の方の踊り逢う時間を楽しく過ごしました。



### ◇参加者の声

- ・始めて間近でジャズダンスを見て素敵だと思った。
- ・盆踊りを一緒に踊ったのは新鮮だった。
- ・子供さんのパワーがすごかった。元気をもらえた。

芸団協では2011年度より「震災復興に文化芸術を基金」を設置し、寄付を募っています。  
これまでに多くの方々からご寄付をいただき、震災復興プロジェクトの活動に充当させて頂きました。  
2016年度には、下記の方々からご寄付を頂きました。改めて御礼申し上げます。（敬称省略）

株式会社 エス・シー・アライアンス      小田 朋子 （ほか匿名多数）

これまでの活動については、下記サイトをご覧ください。

<http://bunka-tsunagu.blogspot.jp/>

今後とも、皆様のご支援をお願いいたします。ご協力いただける方は下記口座へお振込みください。

＜震災復興に文化芸術を基金＞

みずほ銀行 支店名：新宿新都心支店（209） 普通 口座 1494755  
口座名義 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 震災復興に文化芸術を基金  
（シャ）ニホンゲイノウジツエンカダンタイキョウギカイ  
シンサイフッコウニブンカゲイジュツオキキン



GEIDANKYO

【お問合せ】 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 [芸団協]

163-1466 東京都新宿区西新宿 3-20-2 11 階

tel:03-5353-6600 fax:03-5353-6614

E-mail: support@geidankyo.or.jp

URL: <http://www.geidankyo.or.jp/>

160-8374 東京都新宿区西新宿 6-12-30

芸能花伝舎 2F

tel:03-5909-3060 fax:03-5909-3061